

企業の沿革

オーディオテルインターナショナル社は1978年に創業し、スキャンロック・ハーモニック受信機により成功を収めました。スキャンロックは、当時政府組織の一部門の職員であったリー・トレイシーにより設計および製作がなされ、テクニカル・セキュリティ社を通して販売されました。スキャンロックの成功を踏まえ、リー本人は政府機関を離れる決断を行い、スキャンロックの改良・製造・販売及びサポートの強化を目的としてオーディオテル社を創業しました。

その後1987年に、同社はアンドリュー・マーチンに売却され1997年に早逝するまで彼が同社を率いました。当初2年間に彼は本社をロンドンからノーサンプトンのコービーに移し、更にセキュリティー・リサーチ社を買収しました。セキュリティー・リサーチ社を買収することで、当時最新の開発技術であったチャールズ・ボビルが設計したNLJD（非線形交差検知）技術に関する利用権を取得しました。その後、立て続けに新製品の開発・製造を行ったことで、オーディオテル社は世界をリードするハイテク捜査分野でのエキスパートとして脚光を浴びることになりましたが、1997年にアンドリューが死没した後、同社の経営はアンドリューの管財人の手に委ねられます。

この間も、新しい開発と投資、とりわけその当時の大型契約であった、「建築構造成中に埋蔵されたIED起爆装置の発見」を目的とした改良型NLJD（ソフトウェア・アルゴリズム）についての特許取得済み）のインド陸軍への納入などについてはスタッフレベルで行なってきました。

これを踏まえ、2003年に同社はロンドンを本拠地とした投資会社に売却されましたが、その1年後にはインド政府との間で前述製品に関する更に大きな契約がなされました。この事実は、NLJD関連技術がIEDの起爆装置の検知に有効であることを顕著に示しています。

2009年には、更に高性能なIED起爆装置検知技術開発に着手し、英国国防省の調達要請を踏まえて同じコービー地区に大規模な施設をオープンしました。また、2015年に同社は、英国でも屈指の電子機器メーカー（広範な分野での最先端電子部品実装が主業務）であるティオガ社の所有するところとなりました。

オーディオテル社はこれからも先進的なデザイン、開発、製造および供給を世界中の政府機関、協力機関及び防衛市場に対して行なっていきます。